

2015.9月

品質月報

Monthly Quality Report

9月号 INDEX

PAGE 3 ……品質方針

PAGE 4 ……今月のトピックス

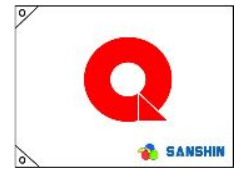
★ 今月のテーマは…
各社、研究開発の動向

PAGE 5 ……品質状況

市場不良率推移 クレーム発生状況



SANSHIN GROUP



品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動をおこない、社会へ貢献してまいります。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを厳守し、お客様に信頼される品質の提供につとめてまいります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守をとおして品質の向上につとめてまいります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネージメントレビューをおこない、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかってまいります。

平成26年10月1日
サンシングループ
代表

石井 宏宗



今月のトピックス

各社、研究開発の動向

日本の製造業が5～10年先を見据えて競争力の源泉となる新技術の開発に積極的に取り組み始めた。日本経済新聞社は2015年度の「研究開発活動に関する調査」を実施。前年度分を答えた主要268社の15年度研究開発投資額は11兆7940億円の見込み。増加率は前回調査の4%を上回る。上位はトヨタ自動車、ホンダ、日産自動車の自動車3社が占めた。

首位のトヨタは過去最高の1兆500億円を計画する。燃料電池車(FCV)など環境性能の高い車の開発に資金を振り向ける。安全運転の支援に必要なセンサーや人工知能などの開発にも注力する。

IHIは成長分野である航空機向けの研究開発を拡大する。米ボーイングの次期大型機用エンジンを米ゼネラル・エレクトリック(GE)などと共同開発する費用が増える。

(成長戦略が目指すのは)ロボットのほか、あらゆるモノをインターネットにつなぐIoT(インターネット・オブ・シングス)、ビッグデータの活用強化だ。IT(情報技術)進展によって産業や就業構造を変える「第4次産業革命」につなげたいとしている。

現場で機械をつなぎ、効率化するノウハウは企業の枠を超えたIoTに生きる。問題は外部との接続で、どれだけ付加価値を生み出せるのか。技術流出につながらないのか。様々な思惑を抱きつつ、枠を超えてつながるものづくりを模索し始めている。

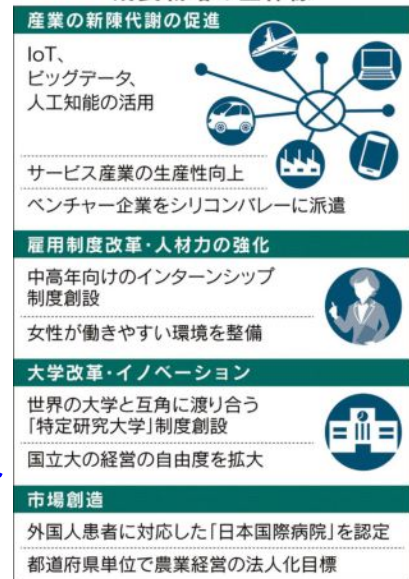
日立製作所は2016年度以降の研究開発費を、15年度見込みより約3割増やし、年5000億円程度にする。日立が世界市場で競争する米ゼネラル・エレクトリック(GE)や独シーメンスに匹敵する規模とし、センサーや人工知能、ロボットに集中投資する。

ヤマハ発動機は米シリコンバレーに研究拠点を開設した。「先進運転支援システム(ADAS)」や自動運転に関連する技術動向を調べたり、有望な現地のベンチャー企業を探したりする拠点とする。二輪車に加えて新たに四輪車市場へ参入する計画を打ち出すなど、事業領域が拡大しており、先進技術を積極的に取り込む体制を整える。

東南アジアなどの主要大学と産学連携に取り組む企業も増えている。人とモノの両面で関係を深め、その国に合わせた製品の開発を進めている。

順位 前年度 実績	社名 研究開発費 (前年度比増減率)	重点分野の例
1(1)	トヨタ自動車 1兆500億円(4.5%)	燃料電池、安全運転 支援技術
2(2)	ホンダ 7,200(8.7)	燃料電池、自動運転 技術
3(3)	日産自動車 5,300(4.7)	電気自動車、自動運転 技術
4(4)	ソニー 4,900(5.5)	半導体
5(5)	パナソニック 4,700(2.8)	ロボットテクノロジー、 住宅関連
6(6)	デンソー 4,000(0.9)	省燃費の自動車部品、 高度運転支援技術
7(8)	日立製作所 3,550(6.0)	人工知能、セキュリ ティー、センサー技術
8(7)	武田薬品工業 3,300(▲13.6)	がん、うつ病、消化器 系疾患対象の創薬
9(9)	キヤノン 3,150(2.0)	ナノテクノロジー、 ロボット
10(10)	NTT 2,300(▲4.2)	セキュリティー、 人工知能
10(-)	大塚ホールディングス 2,300(-)	統合失調症、アルツハイ マー病、がん対象の創薬

成長戦略の全体像



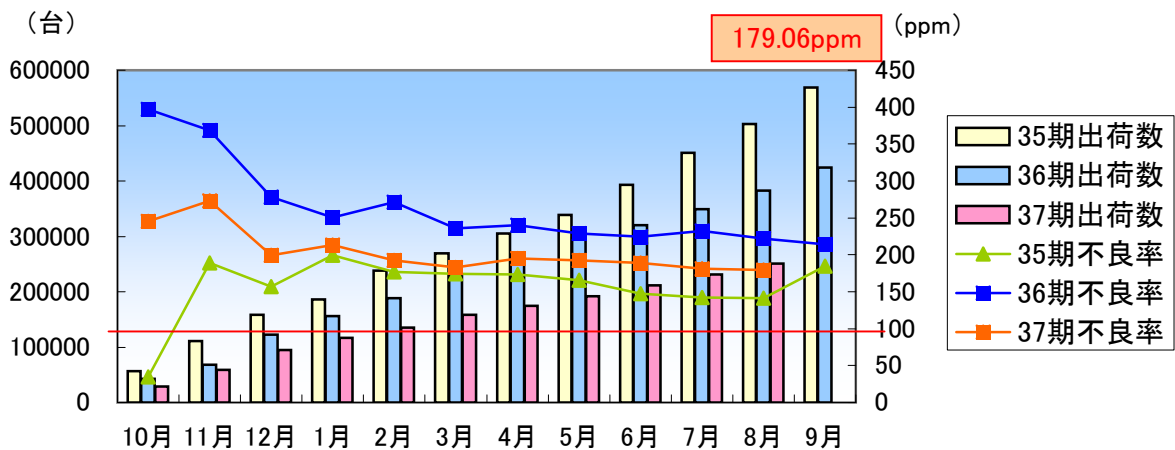
今月の品質状況

37期の旗印

納入不良率 目標.....100ppm

37期の累計不良率は**179.06ppm**です。
 市場不良累計は 45件
 前月比、不良率は微減しました。

市場不良率 (PPM)



クレーム発生推移

「クレーム」の定義: 当社製品がエンドユーザー様にて使用中に
 当社の責任による原因で不具合が発生し、見直し・改修の場合

対前年度クレーム件数推移 (37期)

